次世代担う若者育成　目黒区ミライ会議プロジェクト

「Meguro Festa」出場4校（自由ヶ丘学園高等学校、トキワ松学園中学校・高等学校、目黒日本大学中学校高等学校、目黒学院中学校・高等学校）と関係者で記念撮影（目黒区商連提供）

目黒区商連

目黒区商店街連合会（岡田一弥会長）では、地域連携プロジェクト「目黒区ミライ会議」を通じて、地域の次世代を担う若者の育成を進めている。

このプロジェクトは、地域の高校生が主体となり、イベント企画・運営を通じて商店街への理解を深めてもらうもの。高校生の斬新なアイデアと行動力を生かし、伝統ある商店街に新たな価値を創造することで、世代を超えた地域コミュニティーの活性化を目指している。

2018年の地域を結ぶ勉強会で「学生の意見を反映させたい」という声が上がったことをきっかけに活動が始まり、PR動画の作成、目黒区商連主催の「のんびりイベント散歩」の運営、募金活動など、さまざまな形で商店街活動をサポートしてきた。現在は60人を超える中高生が所属している。

1月24日には、新たな取り組みとして、商店街と中高生をつなぐ音楽祭「Meguro Festa」をめぐろパーシモンホールで開催した。音楽という文化的な側面からも商店街の活性化を図ろうと企画されたもの。開会式では、岡田会長が実施に向けて尽力した生徒たちへの感謝を述べ、来賓の青木英二目黒区長は「若い視点で商店街に新しい風を吹き込んでいきましょう」とエールを送った。

発案から区長への提案を経て、実現まで約1年。企画から当日の運営までを目黒区ミライ会議のメンバーが担ったのは初めてだ。会場では吹奏楽やダンスが披露され、幕あいでは目黒区内の商店街がPRステージを展開。会場を訪れた保護者や観客に商店街の魅力を伝えた。また、洗足商店街振興組合の依田悦子代表理事と大島純副理事がそれぞれ別のステージで演奏し、観客を沸かせた。

目黒区ミライ会議の下坂春翔代表（自由ヶ丘学園高2年）は、「音楽やダンスで自己表現する高校生は多い。発表の場を作ることで商店街の皆さんとの接点を増やし、多世代が交流できる形を目指しました。多くの方々の協力で実現できてうれしい」と手応えを語る。今後については、「自分たちでゼロから形にする取り組みを増やし、防災など地域課題の解決にも貢献したい」と意欲を見せた。

目黒区商連の伊藤典雄専務理事は「ミライ会議の生徒たちが自ら考え、行動する様子を頼もしく見守っていた。地域の次世代と共に歩む姿を示せたことは大きな成果」と振り返った。

「イベント運営を通じて交友関係が広がったのがうれしい」と語る下坂代表

目黒区長をはじめ、多くの関係者の協力に感謝を述べる岡田会長

ロックバンド「MILKY MAMA」のベーシストとして参加した依田代表理事（前列右）

ウチの商店街ってこんなとこ

幕あいがアピールタイム

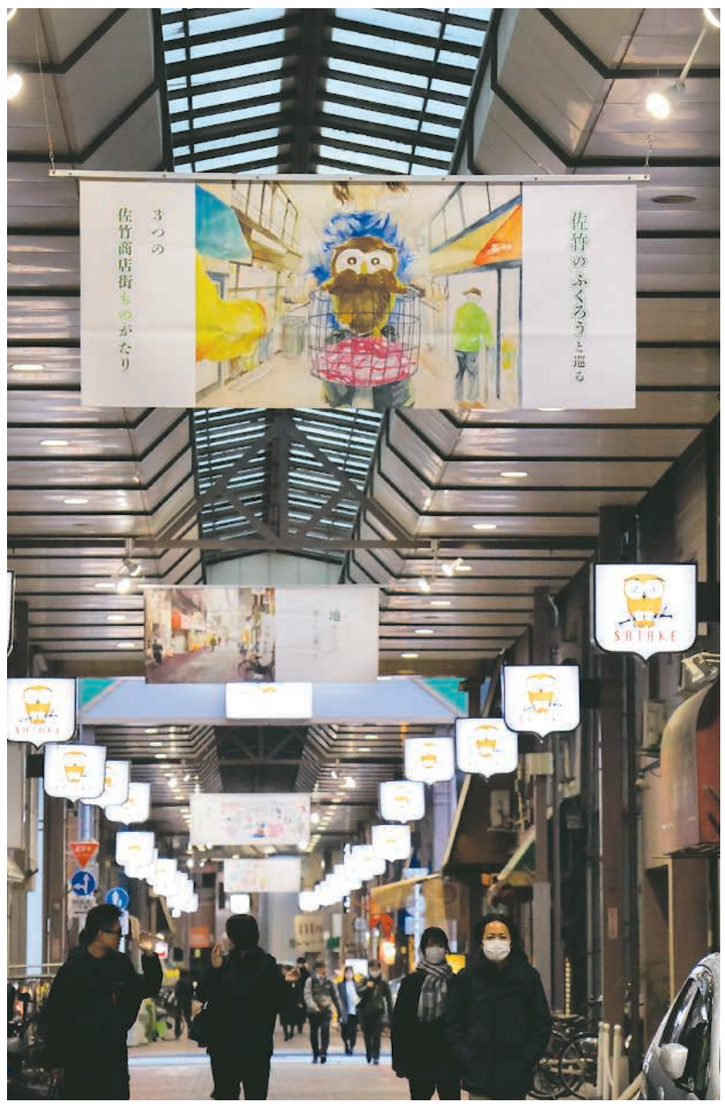
各演奏の合間では、中目黒商店街連合会、イーストエリア、目黒不動商店街振興組合、学芸大学商店街連合会、洗足商店街振興組合、都立大学商店街連合会、自由が丘商店街振興組合のPRが行われた。

目黒不動（振）は、商店街エリアに墓がある江戸時代の蘭学者・青木昆陽（こんよう）とサツマイモの関わりを紹介し、「さつまいもの街」をアピール（写真）。商品開発インターンへの参加も呼びかけた。

自由が丘（振）は、地名の由来が自由ヶ丘学園にあるという歴史と、最新の公式ガイドブックを披露するなどした。

アーケードに公募横断幕

ふくろう祭り新企画　来街者投票で4作品



子どもが応募した作品も選ばれた

台東区の佐竹商店街振興組合（池田正俊理事長）のアーケード下に、新たな横断幕が掲げられ、道行く人の目を楽しませている（写真上）。掲示された4作品は、昨年10月26日に開かれた「第24回ふくろう祭り」の新企画「横断幕コンテスト」で来街者の投票により選ばれたものだ。

阿藤理事

佐竹（振）

コンテストを担当したのは、商店街でギャラリーカフェを営む森山直美さん。応募数や投票数を心配したそうだが、プロの作家や台東区に縁のある人、募集を見た他県の人等から多くの作品が届いた。投票会場には一次審査を通過した計27作品が並び、投票総数は349票に達した。森山さんは、「投票用紙を配っておいたよ」「お客さんに宣伝しておいたから」と組合員が協力してくれたことを振り返り、「皆さんが企画を成功させようと後押ししてくれた。『商店街の力』を実感できた」と喜ぶ。来街者に対しては「横断幕を見上げる度に、あの時のコンテストを思い出してもらえれば」と願いを込める。

「ふくろう祭り」は佐竹（振）の一大イベントだ。今年度は三つの新企画「横断幕コンテスト」「フリーマーケット」「ハロウィンストリート」を取り入れた。地元・都立白鷗高校や東京大学、筑波大学の学生ら約30人が運営に協力し、来街者数は約2000人に上った。

イベントを統括した阿藤稔理事は「視覚的にもにぎわいが生まれ、地域の皆さんや関係者からも好意的に受け止められた」と成果を語る。一方で、イベントの成功が必ずしも個店の売り上げに直結しない課題も浮かび上がったという。阿藤理事は「若い力があれば、売り上げ向上とイベント成功という両輪を回す原動力になると思う」と期待を寄せる。

その上で、商店街が持続していくには、20代・30代が今後10年単位で取り組む発想が欠かせないとも述べた。さらに、「店主とのふれあいや、変わらない安心感こそが商店街の持ち味」とし、例えば長く店を続けている町中華のようなかけがえのない存在を大切にしたいと語る。

阿藤理事は「成長や活性化を良しとする考え方からすれば、今の商店街の姿は衰退しているように見られるかもしれない。でも〝店を開け続けているだけで価値がある〟ということを皆で共有し合える街のほうが良いと思う。若い世代がこの状況をどう受け止め、今後の方向性をどう描いていくのかが一番気になっている」と話す。

新調された横断幕は、今後1年間アーケードを彩る予定だ。

ふくろう祭りは「ガラポン抽選会」と三つの新企画の計4本立てで行われ、多くの来街者でにぎわった（佐竹商店街提供）

TOSHINREN-information

魅力ある街づくりのためには

“振興組合化”から！

■振興組合設立のためには？

振興組合を設立するためには、発起人が7人以上おり、次の3つの要件を満たすことが必要です

①小売商業、サービス業を営む者が30人以上近接して商店街を形成していること

②他の商店街振興組合の地区と重複しないこと

③その地区内の組合員有資格者の2／3以上が組合員となり、かつ、総組合員の1／2以上が小売商業またはサービス業であること

■振興組合設立のメリットは？

①人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます

②組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります

③法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります

④国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

詳しくは　東京都商店街振興組合連合会　組織課へお問い合わせください　TEL：03(3542)0231